

第3学年 図工科の実践

1 単元名 「わくわくアートカード」

2 単元目標

- ・カードを通して様々な芸術作品に触れ、作品の良さや美しさを感じることを楽しむ。
- ・友だちと話し合う中で自分なりの見方や感じ方を深め、感じ方の違いを受け止めようとする。
- ・鑑賞を通して、自分の表現の幅を増やし、次の作品作りの意欲につなげる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題…子どもが解決したい課題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成

手立て…子どもの願いや思いの育ちを見取った単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

4 単元と指導について

《単元について》

本単元は、学習指導要領における、「B 鑑賞」「ア 自分たちの作品や身近な芸術作品、制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。」「イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがわかること。」についてアートカードを使った話し合い活動を通して、作品の良さや美しさを感じることを、自分なりの見方や感じ方を深めることをねらいとする。

《指導について》

児童たちは「つくる」ということに対して非常に意欲的であり、制作過程において様々な工夫を取り入れ、自分の作品をより良いものにしたいという思いを強く持っている。しかし、「鑑賞」については、自分の感じたことを友だちと話し合い交流する場面は少なかった。そこで今回の単元では、「鑑賞」ということに重点を置き、作品を見る視点や、同じ作品を見ていても人によって感じ方が違うこと、話し合うことで友だちの感じ方を知り、そこから自分の感じ方が広がることを体験させたい。また、友だちの感じ方を共感的に受け止める態度を育てたい。

これまでの様子から「鑑賞」の時間は児童にとって決して楽しいものとはなっていないように感じた。そこで、今回単元を通してアートカードを活用することを考えた。カードを使ったゲーム活動を通して、遊びながら作品の良さや面白さに触れ、自分の感じたことを友だちと話し合う中で「鑑賞」の時間は楽しい時間という思いを児童にもたせたい。

カードを活用したひびき合いを実践するにあたり、3つの指導・支援を考えた。1つ目は、作品に対する自分のイメージがもてるように、作品をじっくり鑑賞する場を設けることである。導入では、児童が作品の見方、感じ方を体験できるようにクラス全体でアートゲームに取り組む。2つ目は、グループや全体の場で作品を見て感じたことを発表し合える機会を活動ごとに設定する。交流の場を設けることで、「友だちの意見を認める」「友だちの意見から、自分の作品に対する感じ方を深める」経験をさせ、授業を重ねる中で、「鑑賞とは作品の造形からイメージした自由な発想を伝え合うこと」を感じてほしい。3つ目に、自分の考えを整理したり、友だちの良さをに気付いたりできるよう、振り返りカードを活用していく。単元当初の作品の見方・感じ方から単元を通して見方・感じ方が変わっていく様子を振り返りカードに残すことで、自分の中で感じ方が豊かになる感覚をもてるようにし、今後の鑑賞学習への意欲につなげていきたい。